



## Part 1 (新着資料から)

## &lt;BOOK&gt; 『International encyclopedia of public health 2nd ed.』

(Academic Press 2017 全7巻)

公衆衛生学は、人々の健康を守るための学問です。…でも、健康を守るって大変なことです。人々の健康を害する要因はともたくさんあります。だから、役に立つ公衆衛生学を学ぶためには、いろいろな疾病について疫学的な知識だけでなく、病因やメカニズム、そして様々な社会的な背景などについても理解していなくてはなりません。残念ながら、こうした広い領域の知識をわかりやすくまとめてくれている書物というのは、ほとんどありません。本書は、公衆衛生学の百科事典です。百科事典といっても、ひとつひとつの単語を検索するのではなく、あるまとまった領域について知るための百科事典です。例えば「Specific Mental Health Disorders: Eating Disorders」

という項には、摂食障害について、分類、疫学的状況、リスク因子、診断法、治療法、予後などが端的に記されています。本書を参照することで、その分野についてひととおりの概要を知ることができます。学生にとっては、公衆衛生学に関わる事柄について全体のイメージを掴むために役立ちます。研究者にとっても、研究対象の背景を包括的に知ることができ、分かりやすいプレゼンテーションを作ったり、論文の序論や考察を書く上で参考になる書籍だと思います。本書は公衆衛生学のバイブルと言っても過言ではありません。

教授 長谷川 潤  
(衛生化学研究室)

## &lt;BOOK&gt; 『CRISPR 究極の遺伝子編集技術の発見』

(文藝春秋 2017)

ニュースや科学番組などでゲノム編集という言葉をお聞きになったことがある学生さんも多いかと思います。本書は、現在最も注目を集めているゲノム編集技術である CRISPR/Cas9 システムを発見し発展させた中心人物であるダウドナ博士を中心として執筆されました。まず、先行するゲノム編集技術の欠点を紹介したあとで、ダウドナ博士が如何にして CRISPR/Cas9 システムの発見・開発に至ったのか、共同研究者との出会いやその研究過程の内情を当事者ならではの筆致で描き出しています。研究の発展とともに、遺伝性疾患の治療といったバイオメディカルの世界に画期的なテクノロジーをもたらすことが明らかとなりますが、その一方でこの CRISPR をツールとして活用する是非に関して、遺伝子組み

換え植物の作成の事例から説き起こし、さらには生殖細胞系の遺伝子編集の是非に関しても触れていきます。終盤での、ヒトの遺伝子編集に関する国際会議を立ち上げるなど一科学者としての枠を超えて広く社会にむけて発信していくなどその活躍ぶりには目をみはります。

CRISPR に関する書籍は何冊か出版されていますが、研究の当事者自身が執筆した本書は迫力が全く違います。バイオ系の研究最前線がいかなるものかもよく伝わってきますし、興味をひかれた方には是非一読をお勧めします。

教授 奥田 健介  
(薬化学研究室)

## もくじ C O N T E N T S

ブックガイド part1 (新着資料から)	
長谷川潤・奥田健介	1
ブックガイド part2 (専門分野別) 力武良行	2
後発医薬品に関わる情報 四方田千佳子	3
学生のこころの相談 田中櫻子	4

受入図書から	5～6
グラフと表で見る図書館統計	7
薬剤師のための DI 資料 (32) 渡 雅克	8
2018 年度学術雑誌について・お知らせ	8



part 2 (専門分野別)  
BOOK GUIDE

初学者のための「がん」入門書

教授 力武 良行  
(医療薬学研究室)



厚生労働省の発表によると、日本においてがんは、昭和56年より死因の第1位であり、近年では、死因の30%弱を占め、年間約37万人が亡くなり、生涯のうちに約2人に1人が罹患すると推計されている。このように、がんは国民の生命と健康にとって重大かつ身近な問題である。したがって、がんを学ぶ医療系学生、がん臨床に携わる医療従事者、がん研究者は非常に多く、がんに関するテキストは数多とある。本学においても、近親者にがん患者がいたことを理由に本学を志望した学生も多く、がんに対する関心は高いと推察する。その一方で、がんを学ぶには、複雑な遺伝子異常やシグナル伝達を理解する必要があるとともに、次々と知識をupdateしていく必要があり、初学者にとっては、がんを学ぶのは難しいとの印象を抱かせ、敷居を高くしているものと思われる。さらには、新規作用機序のがん分子標的薬が次々と臨床現場に登場することも、苦手意識を抱く原因となっているのであろう。

そこで今回は、専門性の高い知識については他の成書に譲るとして、ほぼすべてのページにフルカラーのイラストを掲載して、初めてがんについて学ぶ薬学生でも取っ付き易く、なおかつ、できる限り最新の内容を盛り込み、価格も手頃な以下の3つの書籍を紹介する。

「やさしい腫瘍学—からだのしくみから見る“がん”」

(小林正伸 著) 南江堂

認定看護師センター、医学部、薬学部で腫瘍学を教えた経験の有する筆者が、医療系学生や医療従事者のがんに対する誤解や疑問を解決すべく、がんについてわかりやすく解説している。異常ながん細胞の営みを理解するためには、まず正常細胞の営みを理解する必要があり、第1章ではこの正常細胞の増殖・死の制御機構について解説している。第2章以降では、がんの病態、診断、治療に関する最新の知見について紹介している。読者に質問を投げかけ、次にその解答を導く形式でテンポよく書かれている箇所が多く、大変読みやすい。カラフルな図表を1ページないし2ページに1つ以上の割合で入れながら、やや難解な用語にはすぐ右横に解説を加え、理解の助けとなるように配慮されている。

「まるごとわかる!がん」

(元雄良治 著) 南山堂

医療系学生が疾患や検査、薬物治療などについて学習する際におすすめの入門書は、ズバリ看護師向けの書籍である。本書では、看護師を対象として、がんはどのような疾患であるのか、各がんの特徴は何で、どのように治療するのかなどのテーマについて、平易な文章とフルカラーのイラストでわかりやすく解説している。重要なトピックスについては、別途コラムとして紹介している。第1章ではがんに関する基礎知識について、第2章では臨床現場でのがんの診断と治療について、第3章では肺がんや乳がんなど代表的ながんの臨床について、と基礎から臨床まで広範囲にわたって解説しているが、前述の書籍に比べてより臨床現場で役立つ内容になっている。がんの臨床では多職種によるチーム医療が欠かせないが、看護師目線での緩和ケアや患者・家族とのコミュニケーションのポイントも解説しており、薬剤師にとっても、臨床で生かすことのできるがん解説本となっている。

「絵でまるわかり 分子標的抗がん薬」

(石川和宏 著) 南山堂

先述の2冊では、がんに関する基礎から臨床まで幅広い内容が紹介されているのに対し、本書は、がん薬物治療の中でも、これまでの殺細胞性抗がん薬とは作用機序が異なる分子標的抗がん薬に特化した内容の書籍である。分子標的抗がん薬を4つのグループに大別して解説しており、とりわけ分子標的抗がん薬の理解において鍵となる作用機序については、本文中では簡潔な記述にとどめ、ほぼすべてのページにわかりやすく大きくて可愛い(失礼!)イラストを入れて解説している。このイラストのおかげで、タイトル通り、本文を読まなくても理解できるように工夫されている。最近登場し注目を集めている免疫チェックポイント阻害薬についても、わかりやすいイラストを混ぜて解説しており、分子標的薬に苦手意識を抱いている学生にも、おすすめの入門書である。

## 後発医薬品に関する情報



特任教授 四方田千佳子

後発医薬品（GE）の我が国における使用促進は、平成9年に初めて目標値が設定されてから、段階的に目標が高く設定され、2015年の経済財運営の指針である「骨太の方針」では、2017年半ばには70%、2020年度末までの早い時期に80%以上と究極の目標が示されるに至っている。

ここ10年に渡り、目標に向けて各方面の努力が進められているが、日本ジェネリック製薬協会の報告では、2017年の第2四半期（7月～9月）のGEの数量シェアは、68.8%で、70%にはわずかに達しなかった。2016年の第2四半期のシェアが65.1%であることから、単純に計算すると80%達成も可能なように見えるが、困難が予想されている。

現状分析として、「平成29年度の後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査報告書」が公表されており、以下のようないろいろなことが見えてくる。

患者の立場では、GEを使用したくない理由は、GEの効果や副作用に不安があるからが最も多く、報道等でGEの品質、効果等に関して良い情報を聞かないからが続き、一部の週刊誌報道なども影響が大きいと思われる。

保険薬局では、68.3%が積極的にGEの説明をして調剤すると回答された。積極的に進めないとした薬局では、「患者が先発医薬品を希望するから」が最も多く、GEに不信感を抱いたきっかけはという問に対しては、「先発医薬品との効果、副作用の違いを経験した」、「先発医薬品との使用感の違いを経験した」などが多く、不信感が示されている。

薬局におけるGEに関する情報の入手先として回答されたのは、製薬企業のMR、卸業者のMS、次いで医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）であった。GEに関する情報は、受動的に配信されるもので、なかなか自ら探しに行く状態に無いと思われた。

このような調査に見られるようなGEに対する漠然とした不信感は、GEの品質に関する背景、いろいろな検討事例などの情報を適切に理解することで払拭される可能性が高いと思われる。そのためのGEに関する情報源としては、各薬局に印刷物を常置することは困難と思われ、以下のようなホームページ（HP）の活用が有用であると思われる。医薬品情報収集のためには気軽にコンピューターを使用できる環境が望まれる。

### 添付文書：PMDAのHP

(<https://www.pmda.go.jp/index.html>) では、添付文書等検索が重要である。医療用医薬品の添付文書、インタビューホームは調剤上の重要な情報をもたらすものであるが、手元に印刷物が無くても、常に見ることができ、一般名で検索すると類似薬の承認状況も一覧でき、医薬品によっては承認情報も閲覧できる。一般用・要指導医薬品についても同様で、添付文書や承認情報も閲覧できる。

### オレンジブック総合版

(<http://www.jp-orangebook.gr.jp/>)

医療用医薬品の品質再評価により、平成7年以前に承認されたGEの溶出挙動は、先発医薬品に似た挙動となるように調整された。その際の諸情報はオレンジブックとしてまとめられ公開されている。さらに、現在市販されているGEの製剤リストも更新されて掲載されており、GEが品質再評価対象か、その後の通常の承認によるものか、GEの生物学的同等性試験結果なども含めて、多くの情報が掲載されている。

### ブルーブック一覧

(<http://www.nihs.go.jp/drug/ecqaged/bluebook/list.html>)

ブルーブックは、平成29年春から厚生労働省審査管理課により公開されたGEの情報源である。オレンジブックの情報、ジェネリック医薬品品質情報検討会による品質の確認のための試験結果、厚生労働省監視指導麻薬対策課による一斉収去試験による試験結果、添付文書情報など、GEの長年にわたる試験結果の情報を一同に集めることで、品質情報を閲覧しやすいように配慮されている。閲覧数は飛躍的に増加しつつある。

### GEに関するお勧めの参考図書

上記のようなHP上の情報を正しく理解するためには、網羅的に整理された基礎知識を得ることが重要であり、GE入門書として、日本ジェネリック製薬協会編「ジェネリック医薬品パーフェクトブック」（南山堂）を推薦したい。大変簡潔に必要な事項がまとめられており、価格も安価である。また、GEの承認動向などの最新情報を提供する定期購読雑誌として、「月刊ジェネリック」（アズクルー医療情報編集室）が有用である。これらの本は、すでに図書館に配備されており、是非一読をお勧めしたい。

## 学生のこころの相談



臨床心理士 田中 櫻子  
(学生相談室カウンセラー)

### 本学の学生相談室

神戸薬科大学は2003年(平成15年)に学生相談室ができました。4号館教養棟の2階に相談室のスペースがとられ、臨床心理士が1人配置されました。私は2代目の臨床心理士です。2007年(平成19年)6月に赴任しました。当時の神戸薬科大学は、4年制でした。

2008年(平成20年)11月25日に、3号館に学生支援センターが作られ、医務室と学生相談室が隣接することになりました。2011年(平成23年)には神戸薬科大学が完全に6年制になりました。学生相談室は2015年(平成27年)から臨床心理士の配置が2名になり、開室日も増えました。

「学生に対するカウンセリングの必要性は1990年ごろから高まった」と言っているのは河合隼雄です(河合、1998)。のちに詳しくご紹介しますが、河合はスイスのチューリッヒにあるユング研究所でユング派分析家の資格を、日本人で初めて取得した心理学者です。

それまでは、熱意を持った教官や事務官が学生の相談に従事してきており、「人生経験の豊富な人」が担当すればいい、「専門家」はあまり必要ではない、と感じられてきた時代がありました。1990年ごろから、これら熱心な方たちの「熱意や善意」では、学生の相談に乗ることが難しくなり、学生の相談にあたっていらっしゃる方たちから、専門家の必要性が言われるようになりました。

神戸薬科大学においても、ほぼ同様の流れで学生相談室が設立されたと伺っています。

### 学生相談室は戦後から

日本は戦後、新制大学が1953年(昭和28年)にスタートしています。その少し前にアメリカ教育審議会が「アメリカのSPS(Student Personnel Service)やカウンセリングを日本の大学に紹介するための委員会」を発足させ、東京大学を手始めに、次々と大学内に相談所を設立していきました。日本での学生相談室の歴史は、本年で65年目を迎えたこととなります。

当時の日本ではロジャース(Rogers,C.R.)による来談者中心主義が、カウンセリングのお手本でした。1961年(昭和36年)にはロジャースが訪日し、日本各地で講演や研究会を開いています。先の河合は京都大学で数学を専攻していましたが、転科して心理学を志しました。当時、実際に携わっていた高校生への相談を『十分に行えるようになりたい』というのが、大きなモチベーションの一つであったようです。そして河合は1959年(昭和34年)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)にフルブライト奨学生として留学しました。ロジャースのカウンセリングが日本に輸入されるのと入れ替わりに、日

本を不在にしたかたちです。

### 河合隼雄とユング心理学

UCLAのクロッパー(Klopfer,B.)に師事し心理検査を学んだ河合は、そのクロッパーの推薦を受けてスイスに留学しました。4年後に帰国した河合は、ユング心理学を日本に輸入するにあたり、とても慎重であったようです。ユング(Jung,C.G.)の代表的な概念である共時性(synchronicity)や元型(archetype)などは、一見難解でオカルト的との誤解も受けかねない面を持ちます。

河合は、ユングのもとでカルフ(Kalff,D.M.)が発展させた砂遊び(Sandspiel)を、箱庭療法として1965年(昭和40年)に日本へ紹介しました。箱庭療法は学生相談室などへも導入されました。本学の学生相談室には、当初より箱庭療法の用具が備えられています。

ユング心理学が大切にする臨床的な構えが現場に浸透するのを待って、1987年(昭和62年)にまずは日本箱庭療法学会が設立されました。日本ユング心理学会の設立はさらに2012年(平成24年)です。河合の慎重さをうかがい知ることができます。

河合は心理臨床学会の設立(1982年、昭和57年)にも貢献しました。1988年(昭和63年)には日本臨床心理士協会が設立され、最初の臨床心理士が誕生し、翌1989年(昭和64年)には日本臨床心理士会が設立されました。河合も、日本臨床心理士会の会長を務めました。

### 書籍のご紹介

以上、日本の学生相談、河合隼雄、そしてユング心理学の関係について、駆け足で説明させていただきました。学生相談についての参考文献は良書が出ています。ユングの著書や河合の著書は、一部難解なものもあります。理解への近道は、たとえば河合隼雄が著名人を行った対談を読むことだと思います。絵本作家の谷川俊太郎とのやりとりなどを、理解への足掛かりとして下さい。

河合隼雄 藤原勝紀 編著 「心理臨床の実際 3 学生相談と心理臨床」(1998年)金子書房

小林哲郎 高石恭子 杉原保史 編著 「大学生がカウンセリングを求めるとき—こころのキャンパスガイド—」(2000年)ミネルヴァ書房

福田真也 「大学教職員のための大学生のこころのケア・ガイドブック」(2007年)金剛出版

河合隼雄 谷川俊太郎 「魂にメスはいらぬ ユング心理学講義」(1993年)講談社+α文庫

書名	著(編)者名	出版社
実験ノートの書き方：誰も教えてくれなかった：研究を成功させるための秘訣	野島高彦	化学同人
化学史事典	化学史学会	化学同人
新放射化学・放射性医薬品学 改訂第4版	佐治英郎, 前田稔, 小島周二	南江堂
アトキンス物理化学 第10版	Peter Atkins 他	東京化学同人
〈創薬・臨床・薬物動態実務試験のための〉LC-MS/MS 定量分析の基礎	戸塚善三郎	情報機構
薬学機器分析 第2版	萩中淳, 和田昭盛	廣川書店
有機化学命名法：IUPAC2013 勧告および優先 IUPAC 名	H.A.Favre, W.H.Powell	東京化学同人
香りがナビゲートする有機化学	長谷川登志夫	コロナ社
The chemistry of metal enolates vol. 2 (The Chemistry of functional groups)	Jacob Zabicky	Wiley
アルカロイドの科学 (Dojin academic series)	高山廣光	化学同人
ラボ必携：フローサイトメトリー Q&A (実験医学別冊)	戸村道夫	羊土社
ワトソン遺伝子の分子生物学 第7版	James D. Watson 他	東京電機大学出版局
miRNA の最新知識：基礎領域から診断・治療応用まで	落谷孝広	医薬ジャーナル社
エピジェネティクス実験スタンダード (実験医学別冊)	牛島俊和, 眞貝洋一, 塩見春彦	羊土社
入門・医療倫理 改訂版 1	赤林朗	勁草書房
医療・介護のための死生学入門	清水哲郎, 会田薫子	東京大学出版会
薬学倫理・医薬品開発・臨床研究・医療統計学 (臨床薬学テキストシリーズ)	安原真人 他	中山書店
学生のためのカレントメディカルイングリッシュ 第4版	飯田恭子, マーシャル スミス	医学書院
寝ころんで読む傷寒論・温熱論	入江祥史	中外医学社
漢方治療指針：症状・疾患別にみる	幸井俊高	日経 BP 社
イラストでまなぶ生理学 第3版	田中越郎	医学書院
医療・診断・創薬の化学 (CSJ Current Review)	日本化学会	化学同人
集中講義生化学：カラーイラストで学ぶ 改訂2版	鈴木敬一郎 他	メジカルビュー社
クライトン生物無機化学	Robert R. Crichton	東京化学同人
イラストレイテッド薬理学	Karen Whalen 他	丸善出版
中枢神経作用薬 第3版 (目で見る薬理学入門) 【DVD】	医学映像教育センター	医学映像教育センター
がんに効く心の処方箋一問一答	樋野興夫	広済堂出版
薬剤師が解決するポリファーマシー	平井みどり	羊土社
抗菌薬虎の巻 改訂2版	坂野昌志, 片山歳也, 望月敬浩	南山堂
PT・OT・ST のための診療ガイドライン活用法	日高正巳, 藤本修平	医歯薬出版
一歩進んだ糖尿病循環器学	綿田裕孝, 大石充	医薬ジャーナル社
小児薬物療法テキストブック	日本小児臨床薬理学会教育委員会	じほう
内科学 机上版 第11版	矢崎義雄 他	朝倉書店
次世代がん治療	村上善則 他	エヌ・ティー・エス
腎機能低下 (保険薬剤師のための疾患別 Q&A3)	北海道医薬総合研究所	北海道医薬総合研究所
基礎からわかる妊婦・授乳婦のくすりと服薬指導	山中美智子 他	ナツメ社
薬剤師のための医学論文の読み方・使い方	名郷直樹, 青島周一	南江堂
薬学英语の練習帳：OTC 医薬品の服薬指導に役立つ英語表現	大澤聡子 他	萌文書林
薬剤師のためのすぐに始められる！在宅訪問ガイドブック	望星薬局在宅業務支援課 他	薬事日報社
薬は誰のものか：エイズ治療薬と大企業の特許権	ディラン・モハン・グレイ 他	アジア太平洋資料センター
はじめての調剤薬局研修カリキュラム：調剤業務から社会人マナーまで	マリールグループ	薬事日報社
薬局で使える実践薬学	山本雄一郎 他	日経 BP 社
中華人民共和國薬典 2015 年版	中華人民共和國衛生部薬典委員会	人民衛生出版社
日本薬局方：Handy intelligence 17 局準拠版	平野裕之, 市川秀喜	京都廣川書店
添付文書がちゃんと読める物理・化学	高橋秀依, 出口芳春	じほう
AI 創薬・ビッグデータ創薬	田中博	薬事日報社
天然物の化学：魅力と展望 (科学のとびら 60)	上村大輔	東京化学同人
DDS 先端技術の製剤への応用開発	技術情報協会	技術情報協会
製剤学・物理薬剤学	坂根稔康 他	廣川書店

(化学・医学・薬学分野より一部抜粋)

## 受入図書から

### 『救命センター「カルテの真実」』

浜辺祐一 著 集英社文庫

「救急医療」によって救われた命に対して、感動的な場面のみをイメージしている人も多いと思います。しかしこの本では、現役救命センター部長によって、救われた命のその後や治療費負担、さらには超高齢化社会における救命センターの役割など、現場で直面する様々な問題が描かれています。これからの医療のあり方を考えさせられる深刻な内容ですが、ドラマ仕立てでとても読みやすい作品ですので、是非一読下さい。(Y)



### 『チャットボット AIとロボットの進化が変革する未来』

金城辰一郎 著 ソーテック社

「薬剤師ボットを作ろう!」。薬剤師がいらなくなるって言われるけど、何が薬剤師をするの?それがボットだと思います。ボットとはロボットにもなれないポンコツといわれる『特定の質問に対して、単一の回答のみを行うプログラム』です。でもこれって薬剤師の業務と何が違うの?この本では現在世の中にある機能的ボットを紹介しています。これから薬剤師さんになる皆さんが「薬剤師ボット計画」に対して個々のアンチテーゼを示してくれたらと思います。(T. M.)



### 『密やかな結晶』

小川洋子 著 講談社

今年、石原さとみさんが舞台をやることで有名になった作品です。記憶狩りによって島から色々な記憶が消されていく世界。切手、鳥、オルゴール…次々と人々の記憶が消される中で記憶をなくさない人が捕まっています。記憶をなくすことが良いことなのか、私達もなにか大切なものを失っていくのではないかと考えさせられます。主人公の迷いや戸惑い、葛藤にきっと共感できるはずですよ。(KS)



### 『蜜蜂と遠雷』

恩田陸 著 幻冬舎

音楽の神様に愛された若者たちの物語で、お互いの存在がお互いを成長させるという青春群像。音と旋律と振動と光や空気、全てが研ぎ澄まされた言葉で表現されていて読んでいると、確かに演奏が聞こえてくる。登場人物がいい人ばかりで気持ちがいい。史上初、直木賞と本屋大賞のダブル受賞作。(M)



### 『会社人間はどこへいく -逆風化の日本的経営のなかで-』

田尾雅夫 著 中公新書

日本の労働環境、会社人間は第三者から見ると「異常」らしい。外国の友達に日本の労働環境を話したところ、Incredible! Crazy! と声を上げ1時間近く質問攻めに遭った。何故日本人はバカンスを取らず、残業休日出勤三昧で働くのか。どうですか?長期休暇欲しいですよ、定時に帰りたいですよ。仕事一筋!会社人間の形成や思考回路が論理的に書かれています。本書を読んで絶望するのではなく、会社人間にならない為の精神的防衛術を心得ましょう!(ブラック企業を経験した人)



### 『人はなぜ太りやすいのか 肥満の進化生物学』 マイケル・L・パワー, ジェイ・シュルキン 著 みすず書房

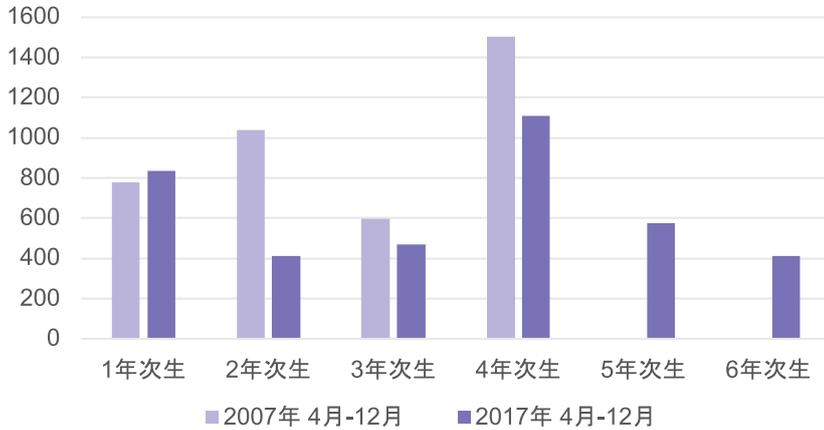
私たちはケーキやクッキーを片手にどれだけ痩せたいとつぶやいているでしょう。本書はヒトはなぜ太りやすいのか、つまり進化の過程でどうして脂肪を蓄えるに至ったのかを丁寧に説きながら、逆になぜまだ痩せているヒトがいるのかと驚きを記しています。肥大化した複雑な脳を支えるエネルギーとして過剰な脂肪を獲得してきたのならば、不要な脂肪を取り除くのも脳によるほどほどが健康で美しいという認識がもしもありません。なるほどと読みやすい一方、現代において健康であることを考えさせられる1冊です。(S.Y.)



## グラフと表で見る図書館統計

2006年に学部6年制教育が開始され、今年(2018年)で13年目となります。今回は6年制が始まった翌年の2007年と、その10年後の2017年の学部学生の貸出統計を比較しました。

### 学部学生 学年別貸出冊数 (冊)



学年別に貸出冊数を比べると、どちらの年も4年次生の貸出が最多でした。

2007年当時は4年次生はこの年が卒業年次でしたので、国家試験や就職試験に向けての学習が主な目的であったと見られます。対して2017年の4年次生はCBT試験に備えた資料の利用が多く見られます。

参考

2007年5月1日時点学生数:1256人  
2017年5月1日時点学生数:1776人

### 学部学生 指定参考書貸出ランキング

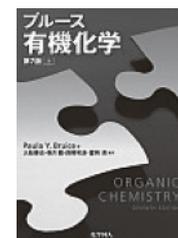
#### 2007年

順位	資料名	回数
1	ブルース有機化学 第4版 上・下	90
2	Essential 細胞生物学	59
2	分析化学の基礎	59
4	ボルハルト・ショアー現代有機化学 第4版 上・下	42
5	細胞の分子生物学 第4版	37
6	薬剤師のための常用医薬品情報集 2007年版	26
6	薬学系のための基礎物理学	26
8	溶液の化学と濃度計算	24
8	物質の物理的性質 (スタンダード薬学シリーズ)	24
10	薬学物理化学 第4版	23
11	薬剤師のための臨床検査ハンドブック	22
12	NEW 薬理学 改訂第4版	18
13	分析化学 改訂第5版 1	17
13	タバコ病辞典	17

#### 2017年

順位	資料名	回数
1	物理化学演習 第2版 (パザパ 薬学演習シリーズ)	48
2	徹底解説薬物動態の数学 第2版	35
3	病気がみえる vol.2	34
4	ボルハルト・ショアー現代有機化学 第6版 上・下	29
5	ライフサイエンスの物理化学演習	27
6	病気がみえる vol.3	23
7	ブルース有機化学 第5版 上・下	22
8	New 薬理学 改訂第6版	21
9	「医療統計」わかりません!!	17
9	ブルース有機化学 第7版 上・下	17
11	薬がみえる vol.1	16
12	薬学物理化学演習 第3版	15
12	薬がみえる vol.2	15
12	放射線概論 第9版	15

「ブルース有機化学」「ボルハルト・ショアー現代有機化学」「NEW 薬理学」の3タイトルがどちらの年も上位に入っています。現在も定期的に改版されているそれぞれの分野の代表的な参考書であり、継続的に指定参考書として選ばれているため、当時から学生に利用され続けています。



ブルース有機化学 第7版



NEW 薬理学 第7版

カリキュラムの変化によって、2007年では見られなかったタイトルも入ってきています。近年出版されている「病気がみえる」「薬がみえる」のみえるシリーズは充実したイラストなどによる理解のしやすさで人気が高い資料です。



薬がみえる Vol.1

## 薬剤師のためのDI資料 32

### 『透析患者への投薬ガイドブック 改訂3版』

慢性腎臓病（CKD）患者は増加の一途である。しかし、CKD患者に対し投与される薬物に関する情報は少なく、処方する際に苦慮することが多い。そうした中、本書は平成11年の初版発行以来、CKD・透析患者の診療・治療に関わる多くの医療従事者から圧倒的な支持を得ている。この度、2版（平成21年発行）から8年ぶりに改訂3版が発行された。

本書は、投与设计のための基礎知識を最新の情報を基に解説した「総論」とエビデンスとなる薬物動態の「データ編」から成る。「総論」は、ADME、腎機能低下患者に特徴的な薬物動態の変化、各種血液浄化法と薬物除去に影響する諸因子、腎機能低下患者の投与设计について実践的に解説してい

る。「データ編」は、掲載医薬品数が大幅に増加され、品目数は839から1,300へととなった。データは「透析患者への投与方法」「保存期 CKD患者への投与方法」「CKD患者の薬物動態（PK）パラメータ」「透析性」「TDMのポイント」など医薬品添付文書に記載されていない情報が簡潔に掲載されている。

本書はCKD患者の薬物治療において、投薬による中毒性副作用の未然防止、薬物による腎機能障害の回避など薬物適正使用の情報源として診療・治療に大いに助力となる。

臨床特命教授 渡 雅克  
(薬学臨床教育センター)

平田純生、古久保拓 編著 じほう 2017

## 2018年度学術雑誌について

### ●購読中止 (洋雑誌)

[1] Science 冊子体(電子ジャーナルは継続)

### (シリーズ洋書)

[1] Official Methods of Analysis of AOAC International

### (電子ジャーナル)

[1] European Journal of Clinical Investigation

[2] Journal of Hepatology

[3] Journal of Magnetic Resonance

### ●新規購読 (和雑誌)

[1] 臨床免疫・アレルギー科

### (電子ジャーナル)

[1] Journal of Neuroscience

[2] Journal of Immunological Methods

[3] Synfacts

[4] Value in Health

### (電子ブック)

[1] Annual Review of Physiology

### ●冊子体購読を中止し、電子媒体のみの購読へ移行 (シリーズ洋書)

[1] Annual Review of Biochemistry

[2] Annual Review of Immunology

[3] Annual Review of Microbiology

[4] Annual Review of Pharmacology & Toxicology

[5] Annual Review of Plant Biology

[6] Annual Review of Nutrition

### ●電子ジャーナルコンソーシアム参加

[1] American Chemical Society (継続)

[2] Wiley (継続)

[3] Springer Nature (継続)

[4] Oxford University Press (継続)

[5] Rockefeller University Press (継続)

[6] Science Online (継続)

[7] ScienceDirect (継続)

[8] Thieme (継続)

[9] Royal Society of Chemistry (継続)

各コンソーシアムによって年毎に利用できるタイトルが変更されることがあります。

エルゼビア社とワイリー社についてはPay Per View利用が可能です。詳細についてはホームページでご確認ください。(学内のみ閲覧可)

### お知らせ

- アズクルー社発行のジェネリック医薬品情報誌「月刊ジェネリック」の購読を開始しました。
- レポート作成をサポートする図書をレベル別に展示した「レポートの書き方」展示を3階閲覧室で開始しました。
- 3階カウンター付近のレイアウトを変更しました。一部書架を撤去し、コピー機等の配置を見直すことで見通しが良くなり、利用しやすくなりました。
- 図書館の資料を学生自身が選ぶ「学生Web選書2017」を実施し、合計79冊の資料を受け入れました。